

国分寺



昭和四十八年五月二十一日、午後六時より国分寺勤労福祉会館において約百名の会員が集まり、盛大に早稲田大学国分寺校友会が誕生致しました。こうゆうことは良いことであるとは知っていないながら、つくづく日常の生活に追われ誰も音頭をとってくれる人がおりません。幸い、この度梅田浩正氏の如き特志家が現れ、卒先して多くの先輩や学校関係者の協力を得られ、その結果が結実されたことはご同慶の至りに存するとともに厚く感謝致しております。

第一回創立総会は若い方々のご協力により、式次第により進行し、立派な規約が制定せられ、名簿も作成され、役員を選出も順調に行われました。その際、皆様のご推挙により不肖中藤が会長という重任を汚すこととなり、心苦しく、恐縮に存じて居ります。しかし、お引受けしました上はベストを尽してこの会の発展のため皆様方のご期待に添うよう努力致す考えでありますので宜しくお指導、ご協力の程お願い申し上げます。

また、十二月には幹事諸兄のご配慮により忘年会を兼ねた例会が駅北口の「川むら」で開かれました。座敷でテーブルを囲み、同じ早稲田の森で学びし大正、昭和の初期、中期後期の卒業生で国分寺に居を同じくする同志四十余名が集り、大学側からは前総長、時子山常三郎博士がご同席され、昔の思い出話、

大学の移り変り等に話の花が咲き、愉快な夕を過ごすことが出来ました。

四十九年六月二十八日には第二回国分寺校友会総会が国分寺パークレインにて開催されました。大学側より村井総長を始め、早稲田大学校友会本部常任幹事の野島寿平氏、同本部事務局長丸茂栄造氏、総長秘書田古島浩氏が出席せられ、幹事諸氏のご努力により会員八十余名を集められて盛大に行われました。式次第により諸報告事項の後来賓祝詞として総



早稲田大学国分寺校友会の 会報発行に際して

校友会会長

中藤 俊一

長よりお言葉を頂きました。その中で大学の最近の情况及学生事件等の詳しい報告をなされまして、われ／＼卒業生等がここ数年にかかっていた母校の現況と、将来への安堵感を得られたことは唯一の収穫と言えましょう。総長は最後に本国分寺校友会の益々発展し、各年代を代表する早稲田の卒業生、在校生が一丸となった愛校心と、地元国分寺に尽す愛郷精神を一層強くせられんことを祈ると激励されました。

総会後懇親会に入った時、各職場にある方より、総長に対しいろいろ、な質問が飛び出し、総長がそれ等に懇切な応答をせられ愉快な話し合いの時間が予定時間を過ぎても続けられる程でした。しかし、この一刻を無限に延ばすことは出来ません。例により、都の西北、早稲田の森に、と校歌を合唱し、次の機会を築しみつつ散会した次第です。

今回、より充実した校友会運営を機会に、会員諸兄の要望もあり、広報部を設けて「会報」を発行することに

なりましたことは誠に目出度く、喜びにたえません。現在の如き情報化時代に「会報」を通じて各自の意見の交換を計り、連絡を密にして各自の仕事の面の交流等を通じ親睦をより増すことこそ意義あることであります。多くの方々の中には未だ本会のあることを知らない校友もあると存じますので、この会報を通じて周知徹底せしめ、全部の早稲田卒業生の参加を心からお待ちしております。

瘦せも厳しき折から会員諸兄のご自愛を心からお祈りし、より一層のお活躍あらんことを希望しております。

(四九・八・一五)

(国分寺農協組合長)
大正一五・法 卒

国分寺校友会に寄せる

私の願い

早稲田大学総長 村 井 資 長

このたび国分寺の盛大な校友会にお招きを受けました。国分寺市をふる里とする多くの校友の熱心な心のふれ合いに心暖まる思いに感激いたしました。東京が広いからといって、旧市内にはそれ〴〵立派な特色があります。先達は八王子の校友会にお招きを受け、国分寺と同じ感激を受けました。日本はいま都市化が進み、東京在住者にはふる里が無いのだという錯覚に落ち入っています。確かに都会ではとかく隣り人が疎遠になり勝ちです。街のうるおひも次第に失われていきます。それでも江戸っ子は千葉にも大阪にも居ないので、日本のため、日本人のために心の拠りどころとなるふる里を育てたいものです。国分寺市は関東のいくつかの国府の一つで古い歴史と近代都市として特色のある街並みを持っています。この街で育った若者が、共通の心ふる里をいとしみ、早稲田を母校に持つ特権を誇り合うことのできるのは校友会です。私は国分寺のような校友会が都下でどんど

増加し、いつの日か早稲田大学校友会東京支部の生れることを願うものです。七月はじめ沖繩で、八月はじめ函館と種内て校友の皆様の大盛んな校友会に列席させて頂き、校友各位の地元での活躍ぶりを知りました。そして大学の近況と将来について報告しました。国分寺では、そこを永住の地とされ、幼い頃の思い出、そして現在その地域での指導的役割りを果されている市長さんをはじめ校友の皆様のご活躍を知ることによって、いわゆる地方校友会と同じ感じを受けました。が、いま一つのグループは都心を職場とする住民の方々です。この協力によつてはじめて新しい東京都下の校友会の意義が生まれ、発展が期待されるものです。

このたび、国分寺校友会が「会報」を発行されると聞ききました。これこそ校友諸氏の親睦のため、また会員相互の意志の交換の上に大いに役立つものであると心からお慶び申し上げます。いまの国分寺校友会を育てられた関係幹部諸賢のご努力に敬意を表すとともに今後とも一層の団結と健康をお願いたします。

(四九・八・一五)



早稲田大学国分寺校友会の記録

◎創立總會

日時 昭和四十八年五月二十一日

場所 国分寺市都勤労福祉会館

出席者 天野ヨシ子、安食得郎、赤羽良三、石川正巳、飯塚輝雄、今尾隆、乾慶四郎、板橋恒二、井戸紀之、海上求、上田阿、梅田浩正、胡谷登、岡部誠一、大橋忠弘、大森信雄、加賀谷和夫、各務恭、笠間重満、加藤喜雄、金田一武、河村尚之、加藤浩子、金木和夫、柏谷広治、神尾昭男、片根英、北林政次郎、北原輝久、工藤重忠、小林好寛、粉川美津子、酒井安和、塩谷信雄、鈴木恒夫、須田茂雄、鈴木文保、砂村峰郎、田中康義、滝口浩生、恒任民男、愛甲史朗、長井融二、中藤俊一、野口喜久次、林繁春、箱岩徹、半沢滋、原稔、反田邦亮、平根宮子、平井俊男、深沢忠孝、細谷忠至、堀田博靖、保坂定男、荻和梓、宮本邦昭、村山公三、山崎武、柳生義雄、吉田栄三郎、矢島周而、渡辺敏一郎 (敬称 略)

◎創立總會

日時 昭和四十九年度第二回年次總會

場所 国分寺市都勤労福祉会館

出席者 天野ヨシ子、安食得郎、赤羽良三、石川正巳、飯塚輝雄、今尾隆、乾慶四郎、板橋恒二、井戸紀之、海上求、上田阿、梅田浩正、胡谷登、岡部誠一、大橋忠弘、大森信雄、加賀谷和夫、各務恭、笠間重満、加藤喜雄、金田一武、河村尚之、加藤浩子、金木和夫、柏谷広治、神尾昭男、片根英、北林政次郎、北原輝久、工藤重忠、小林好寛、粉川美津子、酒井安和、塩谷信雄、鈴木恒夫、須田茂雄、鈴木文保、砂村峰郎、田中康義、滝口浩生、恒任民男、愛甲史朗、長井融二、中藤俊一、野口喜久次、林繁春、箱岩徹、半沢滋、原稔、反田邦亮、平根宮子、平井俊男、深沢忠孝、細谷忠至、堀田博靖、保坂定男、荻和梓、宮本邦昭、村山公三、山崎武、柳生義雄、吉田栄三郎、矢島周而、渡辺敏一郎 (敬称 略)

(敬称 略)

◎忘年懇親会

日時 四十八年十二月一日 午後七時

場所 駅北口「川むら」

出席者 安食得郎、今尾隆、板橋恒二、梅田浩正、大上保、加藤喜雄、柏木謙治、佐々木喜代子、斎藤貫二、塩谷信雄、鈴木

木一信、須田茂雄、田中康義、滝口浩生、恒任民男、長井融二、中藤俊一、西室光義、箱岩徹、反田邦亮、林久仁於、堀田博靖、柳生義雄、山県五郎、谷田成雄 (敬称 略)

早稲田大学国分寺校友会、昭和四十九年度年次總會は六月二十八日(金)午後六時三十分より地元国分寺校友会林久仁於総務幹事経営の国分寺パークレイン・ミーティングルームに於いて、村井資長総長、野島寿平校友会本部常任幹事一行を迎え、箱岩幹事司会で開かれました。今尾副会長開会の辞、中藤会長に会計報告、四十九年度計画予算提示、恒任幹事の幹事一部改訂、役員改選の件に続いて、名誉会長である塩谷市長の総長歓迎の辞と市政概要を語り、野村校友会本部常任幹事の校友会引続いて、野村校友会本部常任幹事の校友会の現況、会費納入の実状と事業概況、終って写真撮影の後丸茂事務長の連絡事項を聞く。總會から懇親会へと変って、和やかな空気の中で村井総長への質問が出る。先づ早稲田における女子学生の質と数との問題、外国学部を新設することは考えているか。等々に対し総長の若干ユーモアをまじえた解答等。終つて総長を中心に若い大橋君のリードで校歌斉唱、須田幹事の万才三唱、最後に岡部副会長の堂に入った閉会の辞で名残りを惜しむつ会を閉じた。特に初め三十分位を予定しておられた村井総長が集まった校友の熱意にこたえ二時間を

超えて懇談されたのは銘記して謝意を表した
い。

(梅田記)

出席者 安食得郎、天野ヨシ子、赤羽良三、
板橋恒二、今尾隆、梅田浩正、上田剛、
胡谷哲、大森信雄、岡部誠一、大神田喜
九男、大橋忠弘、大上保、神田清二、笠
原正成、河村尚之、片岡豊吉、加藤喜雄、
金木和夫、工藤重忠、黒川清和、佐々木
喜代子、斎藤貫二、塩谷信雄、白木信博、
助重久美、須田茂雄、砂村峯雄、高野繁、
滝口浩生、田中康義、恒任民男、富田吉
雄、中藤俊一、林久仁於、林紀久子、半
沢滋、箱岩徹、久田暁、堀田博靖、村山
公三、柳生義雄、山県五郎、谷田成雄、
吉田栄三郎、渡辺敬一郎、森田正紀、小
柳憲三郎 (敬称 略)

新役員は左の通り決りました。

会長 中藤 俊一 (大・一五・法)
名誉会長 塩谷 信雄 (昭・一五・英法)
副会長 柳生 義雄 (昭・八・建築)
工藤 重忠 (昭・一二・政治)
顧問 村山 公三 (昭・七・商)
評議員 今尾 隆 (昭・四・電気)
長井 融二 (昭・七・電気)
矢嶋 周而 (昭・一四・経済)
幹事長 梅田 浩正 (昭・一四・専政)
幹事 (総務) 岡部誠一 (昭28商) 林久仁
於(33・政) 田中康義(35・政)

(企画) 恒任民男(14・専政) 滝
口浩生(32・土木)
(会計) 柏木広治(17・商) 大上
保(38・教数) 堀田博靖(44・
商)
(運営) 佐々木喜美子(27・哲)
中村孔治(26・電通・28・工研



早稲田大学国分寺校友会總會

電・29・法) 大橋忠弘(47・商
研) 比留間義秀(43・演劇)
(広報) 須田茂雄(18・経) 箱岩徹
(23・専工) 平根宮子(39・商)
飯塚輝雄(40・経)

早稲田大学国分寺校友会会則

第一条 この会は早稲田大学国分寺校友会

と称し、事務所を国分寺市におく。

第二条 この会は会員相互の親睦を深め、
地域社会に貢献すると共に、早稲
田大学の事業に協力することを目
的とする。

第三条 この会は国分寺市及其の周辺に在
住、在職する早稲田大学校友、推
選校友及び準校友により構成する。
この会に次の役員をおく。

第四条 会長 一名
副会長 二名
評議員 若干名
幹事 若干名(幹事長・総務・
企画・会計・運営・広報)

第五条 役員は任期は二年とする。ただし
再任を妨げない。

第六条 この会は総会の議決により顧問及
び名誉会長をおくことができる。

第七条 この会は毎年五月に総会を、十一
月に例会を開き、会報を発行する。

第八条 会則の改廃、役員を選出、その他
重要なことは総会において決定す
る。

第九条 この会の運営に資する費用は、会
費及び寄付金、その他の収入によ
ってまかなう。

第一〇条 この会の会費は年額五〇〇円とす
る。

第一一条 この会の会計年度は四月一日に始
まり翌年三月三十一日に終る。

会員だより



★ 年度会費を定期的に振込み等で納入したいと思えます。名簿が作成されていました是非送付して下さい。

(堀田晋市氏 36・教育学部・国立市教育委員会・学務係長)

★ 残念ながら夜の講義があり欠席させていただきます。名簿があればお送り下さい。

(北野弘久氏 37・法研・日大教授・法博)

★ 土曜若しくは日曜に開催を希望する。

(今野 仁氏 20・専工機・竹中工務店設計部設備課長)

★ 会費は一、〇〇〇〜二、〇〇〇円ぐらいに値上げすべし。総長に強く要望する。時代の要請に於て早大にも外国語学部を新設すべし。

(久田 唯氏 32・教育英・府中高校・英語科教諭)



国分寺

会報の題字は校友会名誉会長・国分寺市長・塩谷信雄氏に書いてもらいました

(15・法学部)

お知らせとお願い

☆ 会費払込みについて。

振替口座を設けてありますのでご利用下さい。

口座番号・一八八七五・早大国分寺校友会

☆ なお、現在懸案中ですが、会員の方の住居により地区別に幹事を置き、最寄りの幹事宅にて連絡業務をしてみらうてはどうかと思えます。例えば東元町一丁目梅田又は須田という考え方で、何かのついでにお家族の方がお立寄り頂ければ便利ではないでしょうか。

☆ 会費値上げの声は有難いのですが、出来れば時代に逆行してみるのも早稲田魂の一つでしょう。年に二回以上会報を出したい

☆ 八月九日幹事長を交えて小委員会を開き今後の計画につき話し合いを致しました。いろいろ遠大なる計画案も出しましたが、今回は次の四つの計画にしばってみましたのでお知らせ致します。

(1) 懇談会の開催。
年に一〜二回校友の講師をお招きして地元で懇談会を開催したいと思えます。

(2) 企画部よりのお知らせ
懇談会は校友以外の方でもご希望の方は出席出来るようにしたいと思います。
(但し校友以外の方は会費を別途徴収)

(3) サロンの設置
駅附近に設け、校友の方が何時でも利用出来る様なものになりたいと思えます。

(4) 各種同好会の結成
校友の方々に例えばゴルフコンペ、食べ歩き会、旅行会、囲碁将棋等の同好会を作り、趣味を通じて校友の親睦を深めたいと思えます。この会はお家族の方も出席出来るようにしたいと考えてます。

(5) 早稲田の森を作ろう。
国分寺市に植木を寄附し、公園或は道路に植樹して、後々の記念としたいと思えます。

以上の外に皆様方の良き案、またはご意見、ご希望を企画部までお知らせ下さいれば幸いです。

(連絡先) 国分寺市北町一―一七―一九
滝口 浩生

TEL・ 21・3975 (32・土木)

梅田 浩正

電話 ○四二二―二二―三八八四

☆ 忘年懇親会には前総長・時子山常三郎先生。総会には現総長・村井資長先生が道路をわざわざご出席下さいました。紙上をかりて深く御礼申し上げますと共に先生方の御社健とご活躍を会員一同お祈り申し上げます。

お知らせとお願い

☆ 今回の「会報」は会員諸氏におくばりする他に、市役所や農協や銀行や駅にも少しづつ置いて頂きます。それは私達の努力が到らないために、まだ校友会の存在をご存知でない方が多くいらっしゃるのではないかとと思うからです。名簿から抜けてしまっている方や、連絡のついていない方々に全部入会して頂き度いのです。存じよりの方で早稲田の卒業生がいらしたら是非とも事務所までお知らせ下さい。お願い致します。

早稲田大学国分寺校友会・連絡事務所
国分寺市東元町1―38―24

この会報の頁数は四頁に限りません。原稿が多ければ何頁になっても驚きません。

広報部 須田茂雄(東元町1―17―16)
箱岩 徹(東元町2―9―24)
平根宮子(戸倉2―16―6)
飯塚輝雄(東元町1―35―3)

編集後記
会報の第一号が誕生いたしました。これは早稲田大学国分寺校友会発生の記録というもので面白く読むというものではないと思えます。

☆ 多忙の中を無理に会長と総長に原稿を頂きました。兎に角どんなものを作るかというより、先づ一発がっばなして反響を見ようというのが広報部の意見で、この第一号を組上りいろいろとご批判が出て変わって行くのではないかと気楽な気持ちでやっつけました。

皆様の反響を期待と恐懼で広報部一同待っておりませす。